

没後120年
第2回 “ブルックナーの世界” / 小品名曲集

プログラム

今年、没後120年に当たる音楽史上最も重要な交響曲作曲家、ブルックナーを特集するシリーズの今日は第2回目です。合間にピアノと歌の小品名曲を集めました。合わせてお楽しみください。

ブルックナーの交響曲第4番は1874年1月に着手、11月完成（初稿）しましたが、その後修正を加え1880年に第2稿を、1887～88年に第3稿、89年にも改訂版を完成させています。第3番までの短調から初めて長調の調性をとり、内省的な傾向から人生の明るさを示して行こうとする転換期の作品で、自身が“ロマンティック”と書き添えているように、大自然に対する情感を大らかな響きで表現しています。ブルックナーの全交響曲の中でも最も親しまれている名曲です。交響曲第8番は1887年に初稿が完成、1890年には第2稿を書き上げ、その草稿を参考にしたノヴァーク版、さらに第2稿を元に初稿からも材料を採り入れた、ハース版があります。ブルックナー自らが会心作と称し、初演も大成功を収めました。大規模な構成と深淵な美しさ、生命力に溢れた雄大で豪壮な響きは、ブルックナーの最高傑作と呼ぶに相応しい内容を持っています。

ショパンの前奏曲を意識して作曲されたラフマニノフの前奏曲の中で最も知られた2曲と、原曲は歌曲ですが、管弦楽やヴァイオリンの編曲などで知られる名曲“ヴォカリーズ”を今日はピアノ版でお聴きください。シューマンの初期の歌曲集“ミルテの花”からは最も親しまれている3曲を名ソプラノ、マティスの歌で。スカルラッティ、フォーレの名曲を名メゾ・ソプラノ、ベルガンサの歌でお聴きください。（中川）

セルゲイ・ラフマニノフ (1873~1943):
前奏曲嬰ハ短調 op.3-2 (「幻想的小品集」より)
ヴォカリーズ op.34-14 / 前奏曲ト短調 op.23-5

エミール・ギレリス (ピアノ)
(1977.10.25 モスクワ音楽院大ホールでのLive)

アントン・ブルックナー (1824~1896):
交響曲第4番変ホ長調 “ロマンティック” ~ 第1楽章、第2楽章、第4楽章抜粋
クルト・サンデルリンク指揮バイエルン放送交響楽団
(1994.11.4 ミュンヘン、ヘルクレス・サールでのLive)

*** 休憩 ***

ロベルト・シューマン (1810~1856):
歌曲集 “ミルテの花” op.25より
“君に捧ぐ” op.25-1 / “くるみの木” op.25-3 / “ズライカの唄” op.25-9

エディット・マティス (ソプラノ) / カール・エンゲル (ピアノ)
(1975.9.2 ルツェルン音楽隊でのLive)

アレッシェンドロ・スカルラッティ (1660~1725):
アリア “あなたを愛するのが罪ならば”

ガブリエル・フォーレ (1845~1924):
歌曲 “月の光” op.46-2
テレサ・ベルガンサ (メゾ・ソプラノ) / アルバレス・パレホ (ピアノ)
(1981.4.27 新宿文化センターでのLive)

アントン・ブルックナー (1824~1896):
交響曲第8番ハ短調 (ハース版) ~ 第3楽章から、第4楽章
ギュンター・ヴァント指揮北ドイツ放送交響楽団
(1990.11.3 サントリーホールでのLive)

【稿・版による第4楽章最後部分の聴きくらべ】

第1稿(初稿) ウラディーミル・フェドセーエフ指揮モスクワ放送交響楽団(1997.9.14/ソフ、Live)
第2稿(ノヴァーク版) オイゲン・ヨッフム指揮バンベルク交響楽団(1982.9.15 NHKホールLive)

★ホームページアドレス <http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/>